



1月 食育だより



No.9

駅家西小学校 給食室

新年への願いを込めた

お正月の行事食

あたら ねん はじ 新しい1年の始まりであるお正月は、その年の幸福や豊作をもたらす「歳神様」(年神様・歳徳神)を各家庭にお迎えする日本の伝統行事です。家族そろって、おせち料理やお雑煮といった正月料理を食べて、新年の無事を祈ります。現在では、おせち料理を手作りする家庭が減っており、洋風や中華風などバラエティー豊かなおせち料理が販売されていますが、伝統的なおせち料理には、新年への願いを込めた縁起の良い食べ物が使われています。



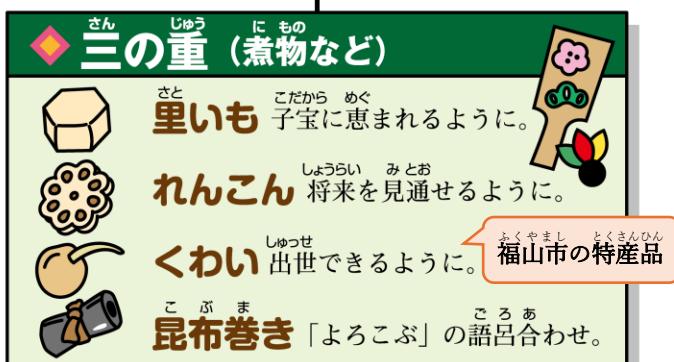
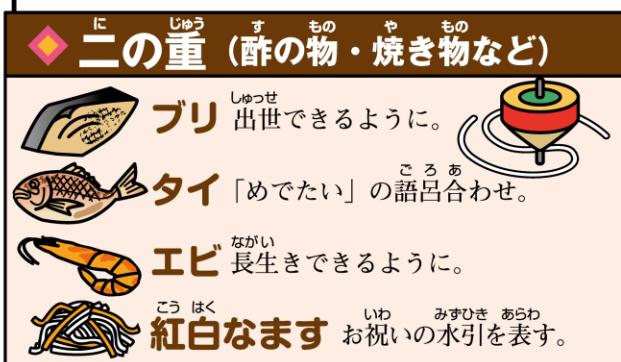
伝統的なおせち料理の意味や込められた願い

※地域や家庭によって違いがあります。



一の重 (祝い肴・口取りなど)

	黒豆 (くろまめ) まめ (まじめ・健康) に暮らせるように。
	数の子 (かずのこ) こだから めぐ 子宝に恵まれるように。
	田作り (たづく) ごまめ ほうさく ねが 豊作を願って。
	たたきごぼう (たたきごぼう) かぞく かぎょう とち ねは 家族や家業が土地に根を張るように。
	伊達巻き (だてまき) ちしき きょうよう み 知識や教養が身につくように。 きま 着るものに困らないように。
	きんとん (きんとん) きんうん めぐ 金運に恵まれるように。
	紅白かまぼこ (こうはくかまぼこ) あか まよ しろ せいじょう あらわ 赤は魔除け、白は清浄を表す。



お雑煮



地域の食材を使って作る餅入りの汁物で、作る餅の形、入れる具材、汁の味つけ、調理方法など、地域や家庭によってどくしく特色があります。餅を入れない地域もあります。

お屠蘇



漢方薬の「屠蘇散」を、日本酒や本みりんに浸して作る薬草酒。邪気を払い、長寿を願って、家族の中で若いひとから順に飲んでいきます。



1/24～1/30は
「全国学校給食週間」です

にほん かつ こう きゅう しょく

日本の学校給食のあゆみ

がつ こう きゅう しょく はじ

学校給食の始まり



めいじ ねん やまがたけん しりつちゅうあいしょうがつこう ます こ しょくじ ていきょう はじ
明治 22 (1889) 年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。
この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使つて食事を用意していました。大正 12 (1923) 年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。

おにぎり

やさかな
焼き魚

つけもの

漬物

めいじ

ねん

(明治 22 年ごろ)



ごしき

五色ごはん

えいよう

しる

栄養みそ汁

たいしよう

ねん

(大正 12 年ごろ)



し えん ぶつ し

がつ こう きゅう しょく

さい かい

支援物資による学校給食の再開



せんご えいようじゅうたい あつか しんぱい こえ たか しょうわ
戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和 21 (1946) ねん がつ か ララ きゅうえんこう
にんたんたい きゅうしょくようぶつし きぞう よく がつ がつこうきゅうしょく さいかい
認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」
としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

ミルク

トマトシチュー
(昭和 22 年ごろ)



コッペパン・ミルク

たつた あ
クジラの竜田揚げ
せん切りキャベツ
(昭和 25~30 年ごろ)



バラエティー豊かな献立内容に



しょうわ ねん がつこうきゅうしょくほう せいりつ じつ したいせい ほうてき との がつこうきゅうしょく きょういくかつどう
昭和 29 (1954) 年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位
ちづ ちゅうしん しょうわ ねん べいはん はん せいしき どうにゅう
置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和 51 年に米飯(ご飯)が正式に導入されると、カレー
ライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。

ミートスパゲッティ

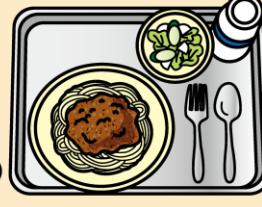
ぎゅうにゅう
牛乳

フレンチサラダ

しょうわ

ねん

(昭和 40~50 年ごろ)



カレーライス

ぎゅうにゅう しょ
牛乳・塩もみ

たまご

ゆで卵

しょうわ ねん

(昭和 51 年ごろ)



かつこうきゅうしょく ないよう じだい へんか じだい か こ う
このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが飢えるこ
た すこ せいちょう ねが こ げんたい おとな
となく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても
じぶんじしん かんが けんこう しきせいかつ づづ がつこうきゅうしょく きょうざい
自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるよう、学校給食は「教材」としての役割も担っています。